

【自閉スペクトラム症・AD/HD の障害特性に応じた指導の工夫】

～社会性・行動面の課題への対応～

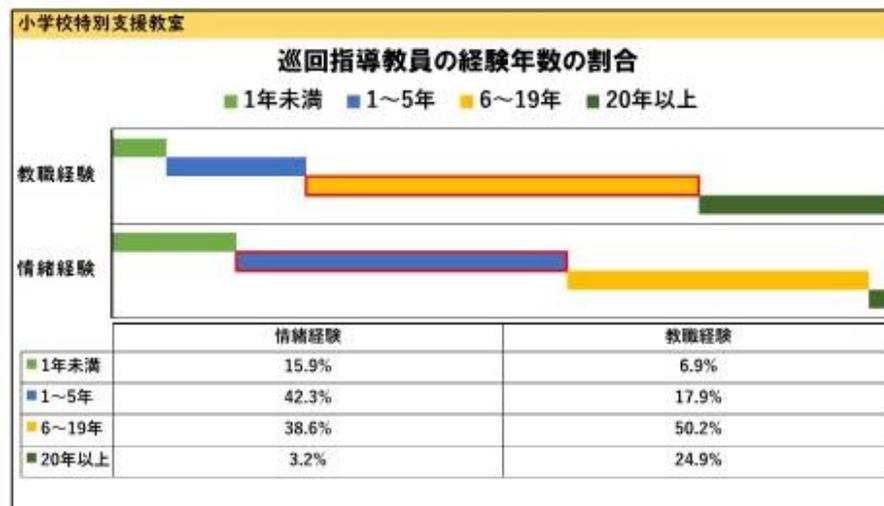
I 団体の概要

本会（略称：都情研）は東京都の特別支援教育の充実・発展に寄与することを目的とし、情緒障害教育、発達障害教育等に関する専門研修を通して、教職員の専門性向上を目指している。研修会は全都の公立幼・小・中学校教職員、区市町村教育委員会職員等が対象となる。具体的な研修会として、全都を5ブロックに分けて開催する地区ブロック研修(年間7回)と、全都を対象に開催する全体研修(年間4回)を設定している。また、情緒障害等通級指導学級時代から継続的に実態調査を実施し、それらを踏まえた上での実践的な研修となるよう努めている。

II 現状と課題

都内小・中学校全校に特別支援教室が設置され、利用者数が年々増加し、小学校約2万4千人、中学校約6千人、計約3万人となり、それに伴う教員数の増加(約3千人)も著しい。ガイドラインによる原則の指導期間(延長含む2年)が示された後、満期となる初年度を迎えたが、指導目標の見直し等により改めて指導を開始するケースが多い。発達障害に起因する問題は、容易に課題解決とはなりにくい実態が推測される。同時に、小学校では情緒障害教育経験年数5年以下の教員が全体の約5割、中学校では約7割を占め、担当教員の専門性の向上は必須である。また、自閉症・情緒障害特別支援学級が新たに設置される地域も増え、在籍する児童・生徒数も急増している。特別な場での効果的な指導が行われることを目指し、研修会の内容を設定し活動を進めている。

★令和6年度 実態調査より抜粋



Ⅲ 夏季研究大会・課題研修会【8月2日(金)・8月23日(金)開催】

夏季研究大会では午前中に都内4ブロックの代表による実践発表を行った。午後には定期総会の記念講演に続き、宮本信也先生（筑波大学名誉教授）による講演「行動問題を主とする発達障害（ASD・ADHD）の理解と支援～本当に大切なことは心の安定です～」を行った。医療の立場から長年臨床に携わられた実践に裏打ちされた話は、学校現場で実際に子供たちと関わる教師にとって多くの示唆に富んだものであった。

課題研修会では、普段研修会に参加しづらい、自閉症・情緒障害特別支援学級と中学校特別支援教室分科会を設定し、パネルディスカッション、実践発表及びグループ討議を行った。他地域、他校の実態や、具体的な教材も含めた実践の交流が行われ、ニーズの高さを改めて認識することができた。

（以下は夏季研究大会午前中の実践発表に対する指導助言資料より抜粋）

運動面の指導大事です！！

- ・気持ち(心)のコントロールの話しになりがちですが、心と体をうまくあつかえるようになってほしいですね。
- ・多動で、よく動けそうなのに上手に動けない子どもたち。
- ※そへど、ゆっくり、西ゆっつ、すばやく、さっさとなどなど。
- 粗大運動、微細運動、模倣の苦手
- ※2次障害等、情緒的に不安定な子
- まずは、個別で運動・音楽・もの作り(作業)等が効果的な場合もある。

学習態勢の大切さ

- ・「授業規律」は通常の学級の先生側が集団に対して考える視点
- ・「学習態勢」は、特別支援教育科の子ども一人一人が、集団に参加して学ぶで行くペースができていくかを考える視点
- ・静かにして作業していないので大丈夫。聞いていないけれど・・・
- ・メチャメチャ反応して良いついでに、ずっとしゃべってるね・・・
- ・「子どものつぎの動きを大事にやってあげよう」、「心の声を止めてほしい」
- ・高学年からの入級、学習態勢ができていない状態で指導が始まる困難さ。
- ・ASDの理解的関心事が異なること、互いに共鳴しあえる場面が重要になる場合もある。グループワークが重要。

通常の学級の適応を目指す指導？

- ・あくまで自立活動の目標、「障害の改善・克服をめざす指導」
- その結果、通常の学級での適応が良くなる。
- 中・長期的な視点を持って目標を立てる！

最後に・・・

- ・この子達に何を教えようとする前に、ASDの患者を彼らから救わしましょう！
- ・この先生はたくさん褒めてくれるなあ！
- ・この先生はほくことをわかってくれるなあ！！
- ・この先生の言うことを聞くとうまくいくなあ！！！！
- ・この先生の言うことを聞いてみたいなあ！！！！
- ・この先生に叱られたら納得がいく！！！！！！

Ⅳ 秋季セミナー【11月19日(火)開催】

「指導・支援のつながりを考える～小学校・中学校・都立高校等における発達障害教育の推進～」と題し、前半に都情研の調査報告、その後、福島正幸先生（教育庁都立学校教育特別支援教育企画調整担当課長）、西村伸子先生（東京都中部学校経営支援センター統括学校経営支援主事）による東京都の発達障害教育の推進についてご講演いただいた。東京都の施策、そして今、目の前で我々が取り組んでいる子供たちへの指導との関係を整理する貴重な機会となった。その上で、時代が変化しても、我々が大切にしなければならないこと等を考えさせられる、多くの示唆に富んだ有意義な会となった。

Ⅴ 次年度への課題

今年度も、1年間の研修会への参加者が、のべ5,500人を超えている現状があり、課題に対するニーズの大きさと本会への期待、役割を改めて実感している。今後も実践的な研修を取り入れつつ、全都の情緒障害教育のレベルアップに取り組んでいく必要がある。

<令和6年度連絡先>

団体名		東京都公立学校情緒障害教育研究会	
代表者	所属	江東区立第五砂町小学校	
	職氏名	校長 小林 英忠	
	連絡先	03-3646-4474	
事務局	所属	立川市立第八小学校	
	職氏名	指導教諭 上山 雅久	
	連絡先	042-536-0031	
団体ホームページ	URL	https://www.tojyoken.com	
	二次元コード		